

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700096		
法人名	グリーンライフ株式会社		
事業所名	はびね周南		
所在地	山口県下松市生野屋南1-7-10		
自己評価作成日	平成29年4月29日	評価結果市町受理日	平成29年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年6月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はびね周南は ご入居者様にとってのご自宅です。地域の中で共に暮らす生活者として日々過ごすことを大切にしています。子供さん達の日々の安全を願う 近隣の小学校への交通立哨は7年目を迎えました。日々、笑顔とパワーを頂く子供さん達に、感謝の気持ちをこめて 今年も卒業式では、皆で作ったお手製の「ハピコトちゃん」をプレゼントしました。また、集団の中の1人ではなく、「個」として尊重したいという思いから 個別の関わりを重視しています。1日お1人限定2時間ではありますが、マンツーマンでお好きな事にお付き合いする時間を作り「その方の思いに寄り添う」を形にしています。また、朝は散歩を欠かしません。日々取り組まれている趣味的な活動は、年に1度のはびねギャラリーとして作品展示し、ご家族や地域の方をお招きしたイベントにしています。「自分が認知症になった時 入りたい施設に一步ずつ近づいている。そんなはびね周南です。

地元小学生の下校時交通立哨を継続して実施しておられる他、近隣の小学校に出向いて認知症サポーター養成講座を複数回開催しておられます。馴染みの元民生委員が、ほぼ毎日のようにアコーディオン演奏で来訪されたり、絵手紙や押し花などの講師(ボランティア)の来訪、事業所主催行事としての地域交流センターで開催しておられる運動会、事業所での夏祭りや餅つき等には、利用者家族の他、近隣住民、地域ボランティアや関係団体などが参加され、事業所全体で地域住民と日常的に交流されています。今年から、市の担当課と連携して認知症カフェを開催され、利用者も職員と一緒に参加されて、地域の人と交流されています。法人研修は、職員の段階別、テーマ別、職種別等の研修を実施しておられ、職員一人ひとりに合わせて受講することができるなど、職員を育てる取り組みをされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分や家族が認知症になったとき入りたいGHをつくる」を施設理念に掲げ実践。朝礼時、日常の5心の唱和。また、毎年、理念が具現化するよう、本年度の目標を掲げ取り組んでいる。29年度は「お年寄りがほほえんでくれるようなスタッフになろう」	法人の理念と行動指針、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を事業所内に掲示している。全職員は朝礼時に唱和して確認し、理念に基づいて具体的な年度目標を作成し、管理者と職員は共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花岡小学校への交通立哨 地域交流センターのクリーン作戦実施 近隣他施設の祭りや催しに参加	自治会に加入し、清掃活動に利用者と職員が参加している。地元の小学生の下校時の交通立哨を実施している。近隣の小学校で認知症サポーター養成講座を複数回開催している。事業所主催行事として地域交流センターで行う運動会や事業所での夏祭りや餅つき、ギャラリー作品展には、利用者家族の他、近隣住民、地域ボランティアや関係団体などが参加している。ボランティア(三味線、ハーモニカ、大正琴、フラダンス、歌謡ショー、体操等)の来訪がある他、元民生委員によるアコーディオン演奏が毎日ある。毎月絵手紙や押し花の講師が来訪し、利用者は作品づくりを楽しんでいる。今年からは市の担当課と連携し認知症カフェを開催している。利用者と職員は認知症カフェのちらしを配ったり、カフェに参加している。散歩時には近所の人と挨拶を交わしているなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長寿社会課長寿支援係と連携し、下松市の認知症施策に協力している。 ・認知症カフェの運営 ・認知症サポーター養成講座 ・予防教室(にこにこ塾・OB会) ・中村小学校「こころの先生」講師 他		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	リーダー会議で 評価について報告し、次のステップに向け今後の取り組みを話し合っている。 朝礼時管理者から、フロア会議時リーダーから各フロアに伝達し共有している。結果は回覧している	管理者は、評価の意義について、全体会議で説明している。自己評価は、リーダー会議で話し合ったものを職員に回覧して意見を聞き、管理者がまとめて作成している。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画をたて、事故防止の取り組みや事故発生時の備えについて、インシデント・アクシデント報告に基づくリスクマネジメント対策の充実に向けてなど、改善に取り組んでいる。	・全職員が一人ひとりで自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告。	会議は、2ヶ月ごとに1回開催し、ユニット毎の利用者の近況や開催行事、インシデント・アクシデント等について報告し話し合いをしている。給食の試食会や夏祭り、運動会餅つきなどの行事と同時に開催し、行事にも参加してもらっている。参加者からボランティア等の紹介があるなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿社会課長寿支援係と連携し、下松市の認知症施策に協力している。困難事例については市包括に報告し協力いただいている	市の担当課職員とは、市役所に直接出向いたり、電話で相談や情報交換を行っている。他、認知症サポーター養成講座、認知症カフェの開催、予防教室に職員を派遣しているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議出席時や電話で困難事例の相談や情報交換を行っているなど、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを遵守している ・身体拘束廃止委員会⇒毎月1回検討している ・年1回 身体拘束廃止委員会が主体となり全スタッフへ研修をしている	身体拘束廃止委員会で検討し、内部研修で学び、職員は抑制や拘束のないケアに努めている。質のセンサーマットを廃止するなど常に工夫検討している。スピーチロックについては、リスクマネジメント委員会で話し合い、気になる場合には管理者がその場で職員に指導している。玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の実施。併せて現場ではグレーゾーンに該当しそうな事例について早期発見に努めている。ユマニチュードを推奨したケアの取り組みで不適切ケアを無くし、虐待を生まない風土作りを心がけている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修を実施している。地域包括支援センターに相談する場合もある		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず管理者が実施項目ごとに納得されておられるか確認しながら行っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	口頭や電話だけでなく、アンケートの実施モニタリングの実施 ご意見箱を設置する等の対応をしている。ご意見ご要望は、紙物ベースにし、全スタッフで共有することで再発防止に努めている	契約時に、苦情や相談の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議時、行事参加時等で、家族から苦情や要望、意見を聞いている。年1回、法人独自のアンケートを実施して意見等を聞いている。毎月利用者ごとに写真と職員のコメント等を書いた事業所だよりを作成して渡し、関係づくりに努めて、家族の意見が出しやすいように工夫している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回労働者の代表を投票で決め、主にその代表を窓口としているが 毎月1回リーダー会議で意見を聞いている。他に当社タイムカードの設置場所が施設長室に近い事から、毎日顔を合わせ気軽に話ができる環境にしている	管理者は、月1回のリーダー会議時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも職員から意見を聞いている。管理者は、職員が意見を出しやすいように環境の配慮に努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価 委員会活動 劇団・予防教室インストラクター等 業務外でも活躍の場を設けている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・本部研修・介護福祉士資格取得に向けた支援	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて受講の機会を提供し、受講後は復命研修をしている。法人内研修としては、役員、リーダー、ケアマネジャー、年代別現任者、新人、看護師、事務職員等の職種別に受講することができる。認知症ケア、介護技術、看護師研修、接遇トレーナー等の研修の機会もある。内部研修は、テーマ別に、倫理・コンプライアンス、個人情報保護、プライバシー確保、感染症・食中毒予防、高齢者虐待防止等の他、事例検討を通じた学習会などを実施し、職員全体のスキルアップを図っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に互いに出席しあい サービスの質の向上に努めている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ヒヤリングを十分に行い思いを聞きとるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ヒヤリングを十分に行い思いを聞きとるようにしている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初はスムーズに移行できるよう、DSを利用し、馴染みの関係性や日常の生活リズムを大幅に変えない工夫をしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割をもち 生活の中で人の役に立ち感謝される場面があるよう支援している		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報は毎月の新聞だけでなく、こまめに電話する等して伝達している。年間 家族参加の行事を多く設け 共に過ごし、スタッフとも話がしやすいようにしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診 外出支援 来客対応 デイサービスのお友達と過ごす支援	家族の面会や兄弟姉妹、親戚の人、友人、知人、元民生委員、カラオケ仲間などの来訪がある他、電話の支援や馴染みの人に絵手紙を送るなどの支援をしている。同施設内デイサービスセンター利用者との交流がある。ドライブでスーパーへの買い物、家族の協力を得て墓参り、法事や葬儀への出席、盆や正月に一時帰宅、日帰り旅行、誕生日に希望にそった場所へ行くなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	GH合同レクや DSとの「ハッピーパーティー」等の交流会 仲良し同士で散歩をする等 関係性を考えた支援		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去したご家族が気軽に お話に寄ってくださったり お手紙を下さったり 行事に参加して下さったり ボランティアとして慰問にきてくださったりしている。ご相談を受けることもあり対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が困難な方については ご家族のご意見を伺ったり、日ごろの様子からスタッフ間で検討している	事業所独自のアセスメント表を活用している他、日々の関わりのなかでの利用者の行動や言葉等を支援記録に記録して把握している他、利用者と職員が1対1で個別に過ごす時間を設け、寄り添うケアをしながら思いや意向の把握に努めている。海岸を散歩したり、畑仕事を工夫する支援をしている。困難な場合は、家族からの情報や職員間でのカンファレンスを基に情報を共有し、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当CMからモニタリングし、アセスメントを十分に実施している		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や表情、申し送り、支援経過等から現状の把握に努め デイサービスの看護職員の助言等を情報共している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議だけでなく、特変等 状態に応じ、家族の意見を求めたり、全職種が関わり行っている 健康面については、デイサービスの看護職員の助言も反映させている	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者、家族の意向を記録したモニタリングシート、かかりつけ医、デイサービスの看護師、管理栄養士等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎月1回モニタリングを実施し、半年ごとに見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて随時見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過、モニタリング、個別の記載を行い情報を全スタッフで共有し、ケアプランに反映している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の気持ちに寄り添うことを形にすべく個別の対応に取り組んでいる。依頼を受け、入居者のご自宅を巡回、郵便物を回収する等、遠方に住むご家族が安心できるよう協力している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問だけでなく 地域の祭りに参加したり こちらの行事にお招きしたり 交通立哨では、近隣の小学生の下校時の見守り活動を継続している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望に応じ かかりつけ医・専門医への受診対応を、基本施設対応で行っている。また、開設当初からの嘱託医の協力のもと週1回の往診等、適切な医療管理ができています	利用者、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療がある。歯科は2ヶ月に1回訪問診療を受けている。他科受診時は家族の協力を受けて受診の支援をしている。夜間や緊急時には協力医療機関の指示を受けて対応し、症状によっては同施設内のデイサービスセンター看護師と連携を図るなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、デイサービスの看護職員と連携し適切な健康管理、医療支援体制が整っている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーや口頭でも都度、情報の伝達に努める等 関係性を築いている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご説明をするだけでなく、実際に状態の変化があったときに 家族と十分に話し合い 場合によっては医師の指示のもと、訪問看護事業所とも連携しながら チームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応についての指針に基づき、契約時に事業所ができる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族の意向と主治医の意見を聞いて話し合い、方針を決めて全職員で共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント委員会があり インシデント・アクシデント報告から 要因分析をし 再発防止に努めている。全スタッフに回覧し周知している	インシデント・アクシデント報告書に記録し、当日勤務の職員間で対応策について話し合っている。その後、月1回の全体会議で再度話し合い、各ユニットのフロア会議で確認している。月1回リスクマネジメント委員会を開催し、報告書をデータ入力して要因分析したものを用いるなど再発防止に取り組んでいる。事故対応については、救急救命の講習会への参加や同施設内のデイサービスセンター看護師による緊急時の対応等の指導は行っているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を全スタッフ参加で実施している。緊急時は 花岡公民館・地域交流センターが受け入れ先となっており 地域の協力体制も整っている	年2回消防署の協力を得て防災訓練を行っている。1回は、夜間の火災を想定した避難・通報・消火訓練を利用者と一緒に行っている。1回は、土砂災害を想定した避難経路の確認を行い、関係機関との連絡や消防署との打ち合わせを行っている。緊急連絡網の整備や近隣の福祉施設との協力体制の構築の他、他グループホーム間で利用者の受け入れについて話し合っているなど、災害時の対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の研修や現場での指導を繰り返し行っている。研修後には、レポート提出で本人の意識を確認している	職員は研修で学んで理解し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけ等があれば、法人独自の接遇トレーナー研修を受講した職員が、注意や指導をして対応している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の時間に何をしたいか、何を作るか等日常的に、ご本人が選択決定する場面が多くある。加えて意思表示が困難な方についても、日ごろの様子から思いを察するよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、ご入居者様 最優先の「誠意中心主義」の精神で個別の時間を大切にしたい関わりを心がけている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣はもとより 整髪・お化粧品(一部の方ではあるが)毎日支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の嗜好を伺う ・毎日の配膳等役割を持っていただく ・昼食作り・おやつ作り ・夏祭り、ビヤガーデン、お花見・運動会の弁当等、外で食事を楽しんだり 外食にお連れする等している 	朝食は事業所で調理し、昼食と夕食は同施設内のデイサービスセンターの厨房からの配食を利用して提供している。献立は、管理栄養士を中心に給食委員会で話し合っって作成している。利用者は買い物や調理、盛り付け、テーブル拭き、お茶汲み、配膳、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は会話しながら一緒に食事をしている。2ユニット合同で月1回炊き込みご飯などの食事づくりをしている他、家族を招待し合同での誕生日会に祝い膳を楽しんでいる。月1回のパンやクッキーなどのおやつづくり、行事食、ビヤガーデン、焼き肉、竹を使ったそうめん流し、鍋料理、個別の外食、家族との外食、季節の花見に弁当持参で出かけているなど、食事が楽しみなものになるよう工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お1人ずつの適量や形状、摂取状況を把握し 記録に残し共有している。水分摂取量は目標値を設定し補給。食事量の低下については、体調、嗜好等の理由を分析、提供するメニューを変える等対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による管理指導 毎食後の口腔ケア		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り、予備動作を把握して誘導を心がけている。居室にトイレがあるため動線を意識し 安全に排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導で排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬は最終手段とし、まず、運動・水分摂取 ・毎朝起床時水を補給 ・夕食時のヨーグルトの提供 ・茶寒天 ・決まった時間にトイレ誘導 ・排便チェックでコントロールしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本、週3回以上 夕方の入浴を実施。本人の希望で毎日入浴される方、体調の関係で日中入浴される方もいる。お1人お1人に応じて支援している	入浴は毎日、16時から18時までの間可能で、週3回は入浴できるように支援している。一人ひとりの希望に合わせてゆっくり入浴が楽しめるようにし、体調に応じてシャワー浴や清拭などで対応している。入浴したくない場合は、無理強いせず、時間や職員を変えたり、気分転換や言葉かけを工夫して、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	センサー類の見直しをした事で 静かな夜を取り戻し ほとんどの方が良眠されるようになった。体調に応じて、日中、時間を決め静養される方もある。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう薬情報を共有している また、服薬介助時のマニュアルに添って、誤薬事故をおこさないよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> •日々の生活上の役割 •ギャラリーの作品作り •毎朝の散歩や外気浴 ウォーキング 個人の畑 •外出 •適度な飲酒の支援 	掃除機、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理、盛り付け、テーブル拭き、お茶汲み、配膳、下膳、食器洗い、畑の苗植えや草取り、水やり、収穫、花の手入れ、ぬか漬けづくり、ジャムづくり、ゆず茶づくり、テレビ視聴、ラジオ体操、読書、新聞を読む、ちぎり絵(多宝塔)ぬり絵、絵手紙、押し花、刺し子、習字、カレンダーづくり、ギャラリー展への出品 作品づくり、百人一首、かるた、絵本の読み聞かせ、囲碁、将棋、カラオケ、エプロンづくり、竹細工でそうめん流しの道具づくり、しめ縄づくり、認知症カフェへの参加など、一人ひとりのしたいこと、好きなことを見つけ、日々の生活の張り合いとなるような場面づくりして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の関わりとして 買い物・散歩・ドライブ 誕生日レクでは、居酒屋、回転寿司に行ったり、遠出もするようになった。	散歩、外気浴、ウォーキング、買い物、地域の清掃活動、山菜採り(筍・ふきのとう・ふき・野イチゴ・うらじろ)、小学校の交通立哨、回覧や広報の配布、近隣施設行事への参加、弁当持参で出かける季節の花見(梅、桜、菖蒲、あじさい、ポピー、バラ、コスモス、紅葉など)、梨やぶどう狩りの他、家族の協力を得て墓参り、法事や葬儀参列、盆や正月に一時帰宅、日帰り旅行を支援している。誕生日に希望する縁の地へ行くなど、利用者と職員が1対1で個別に過ごす時間に普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度管理できる方は ご家族、本人と話し合い こづかいとして取り決めた小額のみ持たれている。買い物時は、施設が立替、好きなものを購入していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は入居者から依頼があれば直ぐに使用できるようにしている。届いた手紙は速やかにお渡しし、ご自分でお読みになれない方には、代読をする等 配慮している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温・湿度 臭い 換気に注意した衛生的な空間であるよう心がけている。季節の花や手芸作品を飾る等 温かい雰囲気になしている 加えて28年度から、各階にオゾンの空気清浄器を設置、脱臭・徐菌対策を講じている	季節の生花があちこちに飾っており、壁にある利用者の作品からも季節を感じることができる。共用空間は明るく、広い食卓、椅子、ソファが利用者にとって使いやすいように配置している。対面キッチン調理や食事の準備を、利用者と職員が一緒にできるよう工夫している。リビングには空気清浄機が設置しており、室内の温度や湿度を適切に調整し、換気にも配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に配慮することはもとより、ソファ等を上手く配置し、それぞれが安心して、ゆったり気兼ねなく過ごせるようにしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者の状態に合った 安全で寛げる空間を意識している。飾りつけも、本人や家族の意見を伺いながらしている	テーブル、籐椅子、テレビ、衣装ケース、時計、カレンダー、仏壇、家族の写真、趣味の道具など利用者が大切にしているもの、使い慣れたもの、好みのものが置いてあり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は、入居者に応じてわかり易い方法で個々の部屋がわかるようにしている。また、居室の動線や空間を整備することで 安全に移動が自立できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

2. 目標達成計画

事業所名 はびね周南

作成日: 平成 29 年 11 月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		事故防止の取り組みや事故発生時の備え	応急手当や初期対応を全職員が確実にできるようになる	29年度中に消防署に協力依頼し、救急時の対応や心肺蘇生法を学ぶ	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。